

# 静勝寺報

第41号

令和5年

6月20日発行

発行所静勝寺

編集発行人

高崎忠道

お施餓鬼、お盆の季節が近づいてまいりました。皆様つつがなくお過ごしのことと存じます。ただ、コロナ感染症はまだ収束を見ず、ウクライナはじめ世界各地での紛争はまだ止むことを知りません。

そんな中、良かった出来事、私が一番印象に残った出来事はWBCでの日本の優勝でした。皆様もドキドキはらはらしながら観戦し、大谷選手の投打にわたる活躍、村上選手の豪快なホームラン、吉田選手の攻守の活躍、投手陣の投球など各選手のプレーに喝采を送り、勝利に酔いしれたのではないのでしょうか。そしてその最大の功労者は、各選手はもちろんのこと、何と

いっても栗山監督ではないでしょうか。栗山監督の選手たちに対する接し方は、監督と選手という上下関係ではなく全く同等でした。それは各選手を尊敬しているからこそであり、選手を信じ、尊重し、任せ、そして感謝する。そのことが、采配、言動に現れていました。選手個々の実力は、アメリカ等の国々の選手のほうが上だったかもしれませんが、日本はチーム全体の力として個々の選手の力を足した分以上のものが出ていました。選手たちは、監督を信頼し、その選手起用法や、采配に不満を持たず、そしてその信頼にこたえました。さらに選手同士も信頼しあい、尊敬し、惜しみなく技術を伝え、互いに応援する姿が画面越しに伝わってきました。それはまさに監督の姿勢が、選手に浸透している証拠ではないでしょうか。

この姿を見て私は「同事」という言葉が浮かびました。「同事」は「四摂法(ししよっぽう)」といって、4つの菩薩(人)の行うべき行為「布施」「愛語」「利行」「同事」の一つです。「相手の立場に立つて慈悲を行うこと」です。『修証義』に「同事というは不違なり自も不違なり他にも不違なり」とあり「同事というのは

同じこと、違(たが)わないこと。自分にも素直に、他人にも同じ立場、目線で付き合うこと」です。

監督、選手という上下の立場ではなく同じ一員として戦う。でも、すべてを他(選手)に同調するのではなく、自分の意見も大切に。自分のおもいを押し付け、あるいは自分勝手な行動するのではなく、他を思いやり、他の意見を尊重しつつ、自分の意で行動し、その言葉、行為に責任を持つことです。

さらに『修証義』には「他をして自に同ぜしめてのちに、自をして他に同ぜしむる道理あるべし」と続きこれは「他者に自分に同調してもらい、自分も他者に一体化させるといふ道理がある」ということになりましようか。威厳があつて近寄り難い人、おのれの意見のみが正しいと思っている人の前では、なかなか自分の意見は言えません。話やすい雰囲気を作つてこそ、相手の意見も聞けますし、その意見にじっくり耳を傾けた上で判断し行動に移していきます。その判断は、たとえ結果はどうであれ、皆が信頼し、不満なく、実力を発揮できる雰囲気を作る。それが栗山監督でした。

私たちは、他人に対してついマウント(優位)をとりましたが、優越感に浸ります。自分の意見、経験を押し付けてしまいます。うまくいかないと、他のせいにしてしまいます。あるいは逆に、人のことばかり考え、人の評価ばかりを気にしすぎて、自分を見失い、自分を犠牲にし、「こんなにやってやっているのに」と思つていても、イライラが募るばかりです。それで、体調を崩してしまつては元も子もありません。

道元禪師様は「利行は一法なり、あまねく自他を利するなり」と示されました。「自利(自分の利益)」と「利他(他の利益)」は別物ではなく「一法(同じ)」であると。自分の欲望ばかり追求してはいけませんがかといつて自分を犠牲にして他人のためばかりに行動してもいけないのです。それは結局自己満足「自利」のみに陥ります。

お釈迦様は「自分が一番愛おしい存在である。同じように他者にとつても自分は愛おしい。だから同じように他者も大切にしない。」とお示しになりました。何事も他人のためと思つても長続きはしません。自分が好きでやっていることは長続きし、身になります。自分で自分を大事にできる人は、他者も大事にできる、思いやることができます。逆もしかりです。

昨今、SNS等で他者への批判非難が横行しています。また自己肯定感が低い人が増えたそうです。他者のみならず自分をも大切にできず、傷つけ、命をも奪つてしまいます。凶悪犯罪がふえ、自分の利己的利益のために、人の物、更には命さえも平気で奪う事件が多くなりました。また、世間を騒がしている宗教団体や宗教二世の問題にしても、ただ盲目的に指導者のいうことのみに従い、自己を滅し、さらに自分の子にも従わせる。これも自に違い、他に追従し、相手の立場を見ない結果でしょう。戦争もしかり、人の命を平気で奪い、自然を破壊し、エネルギーを大量に消費する大変悪かな行為です。

それは人間に対してだけでなく、他の動植物、すべての生き物に対しても同じです。近年の異常気象、絶滅危惧種の増加、環境破壊、人間のとどまることを知らない欲望によって、他の生物、地球全体が脅かされています。他の生物、すべての命あるものへの思いやり、慈悲心を持つこと、それが同事であります。この同事を行つてこそ、そしてその輪が広がつてこそ、世界平和、地球環境破壊の歯止めにつながるはず。

私たちはつながりの中に生きています。家族や、学校、職場の人間関係、食べ物もいろいろな命を頂き、そのおかげをもって生きることができのです(横のつながり)。そしてどの生き物も、過去から面々とつながる命をもつて現在に至つており、それをこれからもつなげていかなければなりません(縦のつながり)。一人になりたい時もあるかもしれませんが、決してつな

がりを断つことはできません。逆に、苦しい時、立ち行かなくなったり、一人で抱え込まず、誰かにその思いを発してください。もし誰もいなければ、仏様に手を合わせ、その思いを述べ、お祈りください。必ずどこからか救いの手が差し伸べられます。



赤ちゃんは縦のつながりの最先端であり、未来につなぐ発端でもあり、さらに、家族はじめ横のつながりの要でもあります。

合掌は両の掌(てのひら)を合わせます。

右手は自分自身を左手はご自身を支えてくれるすべての人、命を表し、これを合わせることで私たちが存在していることを表している姿が合掌なのです。ですからただ手を合わせるのではなく、横と縦とすべてのつながりに感謝を込めて手を合わせます。

お施餓鬼も施しをし、慈悲心をあらわすことで横のつながりに感謝し、その功德をもって、ご先祖様という縦のつながりに感謝し、さらに未来へと縦のつながりを続けていく行為ではないでしょうか。大切に続けていきたいと思えます。

### 今後の予定

#### ○施餓鬼会

7月9日(日) 午後2時法話 永伝寺川上宗雄老師  
3時法要 本堂内に入れます(人数制限あり)。

塔婆ならびにご供養の申し込みは、同封のハガキにて6月中にお願いいたします。(土日の集配はありませんのでご注意ください) また、**施餓鬼会のお布施、護持会費は同封の郵便振替にてお願いいたします。**

**当日受付はございませんのでご了承ください。**

#### ○棚経(お盆のお経)

ご希望の方は、**6月中にご連絡**下さい。

○道灌まつり(太田道灌公の命日)

7月26日(水) 午後4時半 法要 道灌堂

お祭り 5時より静勝寺駐車場、夜店(予定)

お祭りは中止になる可能性があります。

○秋季彼岸会法要9月23日(土、秋分の日)

午前十一時 うた、法話、法要(予定)

○坐禅会 毎月第一土曜 午後2時半〜4時半

定員35名(予約制)

○写経会 毎月第二土曜 午後2時半〜4時

定員25名(予約制)

ただし7月は22日、9月は16日です。

○うたの会 毎月第四土曜午後2時半〜

定員25名(予約制)

ただし7月は29日、9月は30日です

○日曜坐禅会、朝の会

坐禅会、毎週日曜朝6時

朝の会(読経と話) 6時50分〜7時30分

定員35名(予約制)

○ピアノ教室 ピアノを楽しみましょう。

ご予約、お問い合わせは

03・39000・4455まで。

日程を変更する場合がありますので電話、

ホームページでご確認ください。



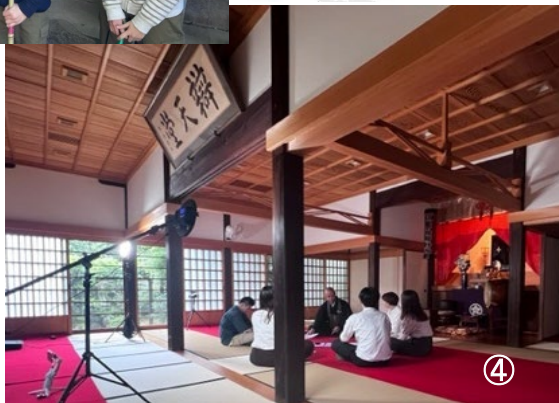
#### ○墓地募集

墓地に空きがございます。

ご希望の方はご連絡ください。

永代供養墓もございますので、ご

相談ください。



Instagram  
@jozanchudo

日頃の境内の様子をアップしています。



静勝寺ホームページ

<http://joshoji1486.sakura.ne.jp/>

坐禅会、写経会、うたの会の予定はこちらでご確認ください

**編集後記** コロナも5類に移行し、同じではありませんが以前の日常に戻りつつあります。お寺の行事も復活しつつあります。

①は4年ぶりに行われた亀ヶ池弁才天の大祭。②は赤羽文化センター主催の文化講座「なぜ静勝寺に太田道灌の像があるのか」

③はボーイスカウトの奉仕活動で境内の清掃をしてもらいました。④は BizSPOT というサイトの YouTube の坐禅撮影。坐禅指導は品川和晃師。坐禅会の参加希望者がコロナ以前より数倍に増えました。世間は心の安寧、坐禅を求めているようです。